

12月豊橋市議会後援記

地方政治 クリエイト **伊藤 秀昭**

■働き方改革
小原昌子氏(自民)は働き方改革について取り上げ、保育士確保や市民病院医療スタッフの取り組みについて質問した。

当局は新規保育士の確保に努力していることや、安心・安全な医療を提供するため、看護師についてはライフステージに合わせた働き続けられる職場づくりに取り組んでいると答えたが、小原氏は多様化する働き方を可能とする柔軟な対応を要請した。

問題点を明確にする丁寧な組み立てが印象的だった。

■財政のマネジメント
鈴木義則氏(公

明)は財政マネジメントの強化の取り組み、特に16年度決算から「統一的基準」による地方公会計に移行することからその整備状況や「財政の見える化」への取り組みについて質問した。

財務部長は17年度の財務諸表の公表に向け、予定どおり進んでいると述べた。また、これを機により分かりやすい「行財政白書」の編集に努めていくと答えた。

■第二アリーナの必要性
総合体育館の利用状況と今後の取り組みを聞いたの

は川原元則氏(無所属)。

教育部長は答弁で、bリーグからBリーグへの移行に伴い豊橋を本拠地とする三速ネオフェニックスのホームゲーム数が6試合から24試合に増加したこともあり、総合体育館利用が過密になっていく。施設の老朽化もあり、大規模改修

が必要。また新たな多目的屋内施設の実現に向け調査を行っているとした。

総力を結集し山積する課題に取り組み

立するために市町村が取り組む総合事業について質問した鈴木みさ子氏(共産)。

近藤氏の「530のまちのモデルステーション」は納得できる提案だった。

■人口減少社会の市営住宅と小学校
中村竜彦氏(自民)は、進展する人口減少と老朽化による大量の建て替えが余儀なくされる市営住宅と小学校の在り方について問題提起した。

■障害児保育
中西光江氏(共産)は障害児保育の対象児童が増えている中、指定園が増えないことなどを問題視した。

開拓に努めている」とした。難しい障害者雇用問題を、くすのき支援学校でどう具現化していくか、総力で向かってほしい。

来々4月から実施するごみ分別変更について、地域説明会での市民の反応などから質問したのは近藤修司氏(自民)。

産業部長は「メイカーズラボ」とは「その人材育成の場として積極的な利用と活用を呼び掛けたが、中小企業が望む仕組みや資格確保体制がなされていないのかどうかが問題でないか、それは豊橋の産業活性化のカギ

携による住宅供給を提案。また学校の統廃合には、「個別の学校ごとでなく全体的に捉えた具体的計画を検討すべき」と提案した。

■特別支援学校の就労対策
前田浩伸氏(自民)は、くすのき特別支援学校が来年度に初の卒業生を出すことから、その就業支援について質問した。

■地域包括ケア
団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題から、そのための土台を築く重要な時を迎えているとして質問したのは古関充宏氏(自民)。

そのための在宅医療の推進と介護との連携、必要性や高齢者の在宅生活を支える「医療・介護・予防・生活支援・住まい」の充実、そのための地域住民のマンパワーの育成などの重い課題が浮き彫りになったが、オール豊橋の総力で構築していただきたい。